

令和7年度

北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議

介護保険に関する会議

3 議題

(1) 「北九州市しあわせ長寿プラン」の
進捗状況について

北九州市しあわせ長寿プランの目標・施策の方向性と担当分野別会議

【ビジョン】 高齢者が健康で生涯現役を目指し、自分らしく安心して、
人生100年時代を幸福に暮らすことができるまち

目標	施策の方向性	メインで 議論する 分野別会議名
①目指そう 活力ある100年 ～健康長寿～	1 人や社会とつながり続け、 役割をもって活躍できる機会の創出	介護予防・活躍推進に 関する会議
	2 生涯を通じた健康づくり・介護予防	
②人情息づく支えあいのまち ～地域共生社会～	1 人のつながりが幸せや安心を生む 支えあいの地域づくり	地域包括支援に関する会議
	2 認知症にやさしいまちづくり (北九州市認知症施策推進計画 (北九州市オレンジプラン))	認知症施策推進に関する会議
	3 尊厳のある自分らしい暮らし を守る権利擁護の推進 (北九州市成年後見制度利用促進計画を含む)	地域包括支援に関する会議
	4 介護者(ケアラー)のサポート	・地域包括支援に関する会議 ・認知症施策推進に関する会議
③選べる自由が感じられる 多彩なケア ～安全・安心・自己決定～	1 不安を安心へ	地域包括支援に関する会議
	2 介護サービス等の提供体制の充実 及び介護保険制度の安定した運営	介護保険に関する会議
	3 安全・安心に暮らし続けられる 環境づくり	全分野別会議

北九州市しあわせ長寿プラン「成果指標・達成目標」進捗一覧

	指 標	目 標 (令和8年度)	進捗状況 令和5年度	進捗状況 令和6年度	単 位	出典等		
施策の方向性2	介護サービス等の提供体制の充実及び介護保険制度の安定した運営							
	1 実情に応じた介護サービス基盤の整備							
	成果	介護保険制度について、「よい」または「どちらかと言えばよい」人の割合	増 加			%	高齢者等実態調査（一般高齢者）	
	達成	施設・居住系サービス利用者数	増 加	13,823	→	13,894	名	実績
		在宅サービス利用者数	増 加	35,062	→	35,998	名	実績
	2 先進的介護等による生産性向上及び介護人材確保							
	成果	介護職員が充足していると感じる事業者数	増 加	38.70%	→	38.7%	%	介護保険サービス意向調査
	達成	介護ロボット等導入施設数	155	140	→	166	施設	介護ロボットの導入状況等に関するアンケート
		次世代に向けた介護職の魅力発信による市ホームページへのアクセス数	20,000	R 6年3月未開設のため実績無し	→	10,879	回	実績
		介護サービス事業者への研修の受講率	100%	71.10%	→	69.4%	%	実績
	3 介護サービスの質の確保及び適正な運営							
	成果	介護サービス従事者研修の参加者数	2,500	1,621	→	1,699	人	実績
	4 保険者機能の強化							
	成果	医療費突合・縦覧点検の件数	21,550	20,573	→	25,018	件	国保連合会の集計
	5 在宅生活を支援するサービスの充実							
成果	福祉用具や介護技術に関する相談（訪問）件数	3350件、うち訪問260件	2863件、うち訪問264件	→	2830件、うち訪問219件	件	実績	
達成	生活支援型訪問サービス従事者研修の修了者数	50	26	→	20	人	実績	
施策の方向性3	安全・安心に暮らし続けられる環境づくり							
	1 暮らしやすい多様な住まいづくりを応援							
	成果	現在住んでいる住宅で「何も問題は感じていない」人の割合	増 加			%	高齢者等実態調査（一般高齢者）	
	達成	セーフティネット住宅登録戸数	6,000	5,883	→	5,882	戸	実績
		高齢者の居住する住宅の一定のバリアフリー化率	75% (令和14年)	43.9% (令和5年)	→	—	%	住宅・土地統計調査
		高齢者人口に対する高齢者向けの住まいの割合	4%	4%	→	4.3%	%	実績
		住宅の構造（段差・階段）や設備（便所・浴室）が使いにくい人の割合	減 少				%	高齢者等実態調査（一般高齢者）
	2 外出しやすくなる環境づくり							
	成果	外出や移動のときに「特に困っていることはない」人の割合	増 加			%	高齢者等実態調査（一般高齢者）	
	達成	シルバーひまわりサービスの利用件数	4,900	4,610	→	4,628	件	実績
		特定道路のバリアフリー化整備率	100%	98%	→	98.0%	%	実績
		運転免許証自主返納数	3,000	2,748	→	3,065	件	実績
	3 安全・安心な生活を守る							
	成果	避難行動要支援者の個別避難計画作成率	85%	68%	→	68.8%	%	実績
	達成	地区防災計画の策定	58	41	→	42	件	実績
高齢者に対する消費者被害防止の啓発講座受講者数		1,000	1,326	→	1,534	名	実績	
介護施設における避難確保計画の作成率		100%	75.5%	→	76.8%	%	実績	
あんしん通報システム新規設置数		増加	389	→	343	件	実績	

北九州市しあわせ長寿プラン取組調書（再掲あり）

目標	方策	実施	No.	取組名	取組概要	取組指標 (KPI) (上段) 指標名・指標数値 [参考 (下段) 指標設定の考え方・未設定理由]	取組状況 (令和6年度)
2 介護サービス等の提供体制の充実及び介護保険制度の安定した運営							
1 実情に応じた介護サービス基盤の整備							
1	1	1	122	介護保険(施設・居住系)サービスの提供	施設やグループホームなどにおいて、介護が必要な高齢者に、日常生活上の介助や機能訓練などのサービスを提供します。	施設居住系サービス利用者数 令和4年度：13,864人 → 令和8年度：14,143人	13,894人
1	1	1				しあわせ長寿プランに掲載した値を記載。	
1	1	1	123	実情に応じた介護サービス基盤の整備	高齢者が介護や医療が必要となっても、住み慣れた地域で安心して生活できるような地域密着型サービス等の介護サービス基盤の整備に努め、地域包括ケアシステムを推進します。整備に際しては、公助等を行い、民間事業者が行う介護保険施設等の整備や利用者の安全を守るための施設改修等に必要となる費用の補助を行い、本市の実情に応じた基盤整備に取組みます。	地域密着型サービスの新設件数 → 令和8年度まで7事業所(手上げを含む)	【令和6年度選定実績】 特定施設入居者生活介護 1事業所 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 1事業所 整備計画(R6~R8) 北九州市いきいき長寿プランに基づく。
1	1	1				地域の実情に応じた介護サービスの基盤整備を目的としているため、今期の促進が望まれる地域密着型サービスの整備に係る指標として地域密着型サービスの新設数を目標値とする。	
1	1	1	124	施設等への円滑な入所の促進	特別養護老人ホームの入所については北九州高齢者事業協会が運用している待機者情報システム(市が一部補助)を市内全施設が利用し、申込者の要介護度に加え、心身の状況及び介護者の状況などを評価し、必要性の高い人から入所を行うことで、入所の円滑化を図ります。	【未設定】 入所の円滑化を目的としており、目標値等の設定はできない。	【参考】 システム運用等に係る経費の補助により、入所の円滑化を図った。
1	1	1				入所の円滑化を目的としており、目標値等の設定はできない。	
2 先進的介護等による生産性向上及び介護人材確保							
2	2	2	125	次世代に向けた介護職の魅力発信	介護職の「仕事内容」や「やりがい」など高齢者福祉や介護サービスの魅力について、小学生、中学生、高校生、大学生に対し、介護事業所の職員等が出前授業を実施することにより、介護の仕事の意義の啓発とイメージアップを図り、将来的な介護施設や事業所への就労意欲の育成を促進します。 また、介護のしごとに対するネガティブイメージ(キツイ仕事・安い給料・離職率が高いなど)を払拭し、介護の仕事に関する正しい理解を促進することで、介護職に対する認知度・イメージアップを図ることで、介護人材のすそ野を拡大し、多様な人材の参入促進につなげます。	・受講生徒数 令和4年度：190人 → 令和8年度：750人 ・市ホームページへのアクセス数 令和8年度：20,000回	・受講者生徒：683人 ・市HPアクセス数：10,879回
2	2	2				児童生徒の介護の仕事の意義の啓発とイメージアップを図ることを目的としているため、出前授業の受講生徒数を目標値とする。 介護職に対する認知度の向上やイメージアップに向けた情報発信の市ホームページへのアクセス数を増やすことを目標値とする。	
2	2	2	126	外国人の介護人材が長く安心して働ける環境づくり	外国人介護人材の定着を図るため、介護福祉士取得を目指す外国人介護人材向けのセミナーや介護技術やコミュニケーション等のスキル習得に向けたセミナーを開催し、外国人介護人材の介護福祉士取得や介護スキル向上に向けた支援に取り組めます。	受講者数 令和8年度：30人	受講者数：25人 うち、介護福祉士取得を目指すコース：15人 スキルアップコース10人
2	2	2				介護福祉士取得を目指す外国人介護人材向けのセミナーや介護技術やコミュニケーション等のスキル習得に向けたセミナーを開催するため、受講者数を目標値とした。	
2	2	2	127	ハローワーク等との連携	介護職のイメージアップのため、引き続きハローワークと連携し、介護職DVDセミナーを実施し、介護現場におけるケアの質の維持・向上及び生産性向上を図ります。また、高齢者就業支援センターやウーマンワークカフェ北九州とも連携し、多様な人材確保の手法や、業務の切り分けなど、支援のあり方について検討を行います。	【未設定】	—
2	2	2				元気な高齢者や子育てを終えた女性など多様な人材の参入促進に推進するため、介護関連のステークホルダーとの関係強化を図ることを目標としており、定量的な目標設定はなじまない。	
2	2	2	128	先進的介護「北九州モデル」の推進	介護ロボットやICT等のテクノロジーを活用した先進的介護「北九州モデル」の普及・促進により、介護現場におけるケアの質の維持・向上及び生産性向上を図ります。また、介護助手活用モデルの社会実装による先進的介護「北九州モデル」の深化・拡充や、在宅介護サービスに関する新たな「北九州モデル」の構築に取り組めます。	・北九州モデル導入を含む職場改善件数 令和4年度：10件 → 令和7年度までに25件 ・介護ロボット等導入施設数 令和4年度：117施設 → 令和7年度までに155施設	・北九州モデル導入を含む職場改善件数 20件 ・介護ロボット等導入施設数 166施設
2	2	2				介護現場において、介護の質の維持・向上、生産性向上の効果が目に見える介護ロボット等を活用した先進的介護「北九州モデル」の普及促進を行っており、「北九州モデル」の導入を含む職場改善の取組件数及び「介護ロボット等の導入施設数」を成果指標としている。	
2	2	2	新規(R7)	介護シェアリング都市の実現	介護人材の確保対策については、市長記者会見「未来の介護大作戦 第3弾」の中で、「介護シェアリング都市の実現」をキーワードに施策の展開を打ち出したところ。そこで、本事業において、介護人材のすそ野を広げるための取組を行うことで、介護の関係人口の増加や多様な人材の参入促進を図る。 「介護シェアリング都市」・・・経営の力や教育の力に加えて、新たな視点によるサービスの試みや、まだ介護業界に関わっていない人の巻き込み、国籍を問わず能力を発揮できる人づくりを通じ、地域全体で介護をシェアリングすることで課題解決を図っていくもの。	スクーター参加事業所数：30事業所 (R7)	スクーター参加事業所数：28事業所
2	2	2				スクーター参加事業所を増加により、市内における身体介助を伴わない介護の仕事募集を増やし、介護業界への多様な人材の参入を図る。	令和7年度からの事業のため実施なし
3 介護サービスの質の確保及び適正な運営							
3	3	3	129	介護サービスの継続に向けた啓発	災害や感染症の蔓延時等の緊急時に必要な介護サービスが途切れることなく提供できるよう、ケアマネジャーが事前代替サービスを検討する等、介護サービスの継続に向けた啓発や研修を行います。	・ケアマネジメント研修 「災害や感染症に備えた支援」に関するテーマで各区年間1回実施。 ・ケアマネジャーを対象に開催する各区ケアマネジメント研修を目標値として設定	・ケアマネジメント研修 「感染症や災害に備えた支援」研修を全区合同開催で実施。

北九州市しあわせ長寿プラン取組調書（再掲あり）

目標	方向性	施策の通しNo.	取組名	取組概要	取組指標 (KPI) (上段) 指標名・指標数値 [参考 (下段) 指標設定の考え方・未設定理由]	取組状況 (令和6年度)
3	3	130	介護保険サービスの利用者負担の軽減	介護保険サービスを利用している人に対し、1か月の利用者負担が一定の上限額を超えた場合、申請により超えた金額を払い戻し、利用者負担の軽減を行います。 また、市民税世帯非課税で介護保険施設（介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護医療院）・ショートステイを利用している人の居住費（滞在費）・食費について、保有する資産など一定の要件を満たす場合は、申請して認定を受けることで軽減を行います。	【未設定】	[参考] 利用者数：9,863人（旧措置含む） 軽減額：2,314,559千円
					申請により軽減措置を行うもので、目標値等の設定はできません。	
		131	社会福祉法人による利用者負担の軽減	生計が困難な低所得者に対し、社会福祉法人が実施する介護保険サービスを利用する場合に利用者負担の軽減を行います。利用者負担の軽減を行った社会福祉法人に対しては、その一部を助成します。	【未設定】	[参考] 利用者数：385人 補助額：13,676千円
					申請により軽減措置を行うもので、目標値等の設定はできません。	
		132	介護サービス事業経営者への研修	介護サービス事業の経営者（事業主）を対象に、労務管理や人材育成等をテーマとした職場環境の改善に資する研修を実施し、働きやすい職場環境づくりを促進します。	研修受講率 令和4年度：74.8% → 令和8年度：100%	研修受講率：69.4%
					経営者や管理者等のマネジメント力の向上による人材育成・職員の負担軽減・ストレスケアなど職場環境の改善を図ることを目的とした事業であるため、研修受講率を目標値として設定。	
		133	介護サービス従事者への研修	介護サービスの質の向上とスキルアップを目的として、介護サービス従事者を対象に、必要な知識・技能を習得するための基礎的研修やサービス・職種別の専門的研修など多様なテーマの研修を実施します。	介護サービス従事者研修受講者数 令和4年度：1,827人 → 令和8年度：2,500人	1,699人
					本事業は、「高齢者を支える介護サービス等の充実を図り、介護保険制度の適正な運営を行う。」ための研修を開催することを目的としているため、回数よりも内容を充実させることが必要と考えている。そのため、時期や対象者に合わせた様々なテーマの研修を実施している。目標値に向かって受講者数が増えることで、介護現場へのフィードバックもより多くの事業所でできるようになるため、上記の数値を設定。	
		134	介護サービス情報の公表の適正化	介護保険制度は利用者の選択を基本としており、利用者の選択を通じてサービスの質の向上が進むことが期待されています。 利用者の選択に資するという観点から、介護保険サービス事業者が義務付けられている年1回の情報公表が適正に行われるよう、事業者に対し勧奨、指導を行います。	情報公表率（公表事業者数/対象事業者数）	未公表事業者に対して、公表の再通知を1回送付し、令和6年度末時点では公表率は96%であった。
					情報公表が義務付けられているが、公表できていない事業者が存在するのが実状である。 公表率100%になるよう目標値として設定。	
		135	介護サービス相談員の派遣	介護保険施設などの介護サービス現場に、利用者・家族と事業所との橋渡し役として相談員を派遣します。これにより利用者・家族からの相談に応じ、疑問・不満・不安の解消を図るとともに、事業所のサービスの質の向上につなげます。	・派遣事業所数 令和4年度：35か所 → 令和8年度：100か所 ・派遣回数 令和4年度：232回 → 令和8年度：1,300回	・派遣事業所数：73か所 ・派遣回数：897回
					新型コロナウイルス感染拡大前の実績等を踏まえ目標値を設定。	
		136	専門職による施設への感染症対策の訪問指導	高齢者施設等に対して、保健所職員等が直接施設を訪問し、感染対策について具体的な指導・助言を行い、感染症対応力の向上を図ります。	指導事業所数 令和4年度：129事業所 令和8年度：巡回点検を実施した施設のうち、平時からの感染症対策が実施前より改善されている施設の割合が8割（訪問後に実施するアンケートにより評価）	—
巡回点検事業を開始し、令和5年度で3年目となるため、指導事業所数ではなく、成果目標として設定。						
4 保険者機能の強化						
4	4	137	福祉用具の適正利用に向けた取組み	リハビリテーション専門職が福祉用具の必要性や利用状況等についてケアプランの点検等を行い、用具の妥当性や利用における注意点等をケアマネジャーに助言、提案することによって、高齢者の身体状況や環境に適した必要な福祉用具の利用につなげ、高齢者の自立支援を推進します。	助言内容をケアプラン作成に反映した割合 令和4年度：実績なし → 令和8年度：100%	99%
					実施後のアンケートにより、助言・提案した内容がケアプラン作成に活かすことができたと回答した割合により事業の効果を確認するため。	
4	4	138	自立支援・重度化防止に向けたケアマネジメント	地域包括支援センター等において、要支援1・2及び事業対象者に対し、自立支援及び重度化防止に向けたケアマネジメント（ケアプラン作成等）を行います。また、適切なケアマネジメントを確立するための取組として、地域ケア会議やケアマネジメント研修の充実を図ります。	・ケアマネジメント研修 「自立支援・重度化防止に向けたケアマネジメント（生活習慣病予防・重症化予防）」に関するテーマで各区年間1回実施。 ・地域ケア個別会議開催回数 令和4年度：611回 → 令和8年度：現状維持 ・生活習慣病の重症化予防の視点を踏まえた原案確認 令和4年度：全事例 → 令和8年度：全事例	・ケアマネジメント研修 「自立支援・重度化防止に向けたケアマネジメント（生活習慣病予防・重症化予防）」に関するテーマで各区年間1回実施。 ・地域ケア個別会議開催回数：568回 ・生活習慣病の重症化予防の視点を踏まえた原案確認 全事例
					・各区のケアマネジメント研修回数、24圏域で概ね月1回開催する地域ケア個別会議を目標値として設定	
4	4	139	住宅改修における実地調査	申請時の改修内容の点検や、改修箇所の現地調査により、不適切または不要な住宅改修を防止します。また、住宅改修事業者を対象とした研修会を実施します。	住宅改修事業者向けの研修実施。 令和4年度：年一回 → 令和8年度：年一回	住宅改修研修会：実施済み（年一回） 現地調査：必要に応じて適宜実施した
					受給者の身体的機能、住宅や生活の状況を踏まえた適正な住宅改修が実施されるよう事業者等に対して、制度の理解促進のため研修の実施を指標とするもの。	

北九州市しあわせ長寿プラン取組調書（再掲あり）

目標	方針	施策	通しNo.	取組名	取組概要	取組指標 (KPI) (上段) 指標名・指標数値 [参考 (下段) 指標設定の考え方・未設定理由]	取組状況 (令和6年度)
4			140	要介護認定の適正化	介護認定審査会の運営を1箇所集中方式で行うことで、効率的に審査会を開催します。また、要介護認定の平準化を図るため、介護認定審査会平準化委員会を設置し、定期的に開催します。さらに、審査判定の公正・公平を確保するため、審査判定に関わる審査会委員や認定調査員及び主治医への研修などを実施します。	【未設定】	・介護認定審査会の1箇所集中方式での運営、介護認定審査会平準化委員会の定期的な開催等の取り組みにより、課題把握や対策等について迅速に対応できました。 ・認定調査員、審査会委員及び主治医への研修を実施し、国が示す要介護認定の認識を共通のものとし、迅速かつ正確な認定調査の実施や主治医意見書の取受、審査判定といった要介護認定の各要素について適正化に取り組みました。 令和6年度実績 1 介護認定審査会、平準化委員会 延べ開催回数 1,366回 審査判定件数 46,681件 2 認定調査員研修 開催回数 8回、参加者数 125人 3 主治医研修 開催回数 2回、参加者数 232人 4 介護認定審査会委員研修 開催回数 2回、参加者数 80人
						主な取組である介護認定審査会の開催は、要介護認定の申請に基づき回数が決まるため、目標値等の設定はできません。	
			141	サービス提供事業者への指導	利用者の自立支援及び尊厳の保持に向け、市内の介護サービス事業所及び介護施設を対象に集団指導及び運営指導並びに監査等を実施することで、介護給付費等対象サービスの質の確保及び保険給付の適正化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 運営指導事業所数 令和4年度：263か所 → 令和8年度まで毎年度300か所 集団指導事業所受講率 令和4年度：100% → 令和8年度まで毎年度100% 	<ul style="list-style-type: none"> 運営指導事業所数：304件 集団指導事業所受講率：100%
					個別に行う運営指導では、新規開設又は前回指導から実施間隔が空いている事業所を中心に介護サービス事業者のサービス提供状況及び報酬基準の適合状況等を確認しながら当該事業者や施設への指導や助言を通して、周知徹底を図り、もって介護保険サービスの質の確保及び保険給付の適正化を図るため、運営指導事業所数を目標値と設定。 集団指導では、市内事業者・施設を対象に、介護給付等サービスの取扱い、制度改正内容及び過去の指導・指示事例等の必要な情報の伝達・共有を目的にオンライン上で公開し、漏れなく実施させることで、各事業者・施設の介護に対する知識の増進を図り、もって介護保険サービスの質の確保及び保険給付の適正化を図るため、受講率100%を目標値と設定		
			142	ケアプランの検証・チェック	居宅介護支援事業所から対象者の書類を受理し、要介護者などに適切なサービスが提供されるよう、本人や家族のニーズに合った居宅サービス計画（ケアプラン）が作成されているか等について、検証を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ケアプランチェック実施事業所数 令和4年度：90事業所 → 令和8年度：90事業所 	87事業所（うち15事業所を委託）
					介護給付の適正化に向けた取組みとして本事業を実施しており、関係書類のチェックに時間を要するため、75事業所を市内7区で振り分け、15事業所を委託し行うという形で目標値を設定。		
			143	介護現場の安全性の確保、リスクマネジメントの推進	介護事業者は、利用者の生命や身体等の安全を確保した上で、質の高いサービスを提供することが求められます。そのため、介護現場における事故の発生や再発の防止に向けた研修の開催や事故予防・再発防止に活用できるよう事故報告統計を公開し、介護事業者のリスクマネジメントを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> リスクマネジメント研修受講者 令和4年度：203人 → 令和8年度：300人 	266人
					介護現場における事故の発生又はその再発を防止するためのリスクマネジメント研修の受講者を増やすことを目標値とする。		
			144	医療費突合・縦覧点検	医療費情報との突合（医療給付情報と介護給付情報を突合し整合性の点検を行う）及び縦覧点検（複数月の介護給付費明細書における算定回数の確認やサービス間・事業所間の給付の整合性を確認する）を福岡県国民健康保険団体連合会に委託し、給付状況等を確認したうえで、疑義がある給付内容で重複請求等請求の誤りが判明した場合は過誤申立等を行うことにより、介護給付費の適正化を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 医療費突合・縦覧点検件数 令和4年度：20,408件 → 令和8年度：21,550件 	25,018件
					医療費情報との突合・縦覧点検の効果的・効率的な実施を図るため、適正化システムにより出力される有効性が高いと見込まれる帳票の実施件数を増やすことを目標値とする。		
再掲 (No.117)		リハビリテーション専門職の地域派遣	医療機関等のリハビリテーション専門職を、住民が運営する地域活動等に派遣し、一人ひとりの身体機能や生活環境に合った効果的な介護予防の方法について助言・指導等を行います。	<ul style="list-style-type: none"> 派遣回数 令和8年度：400回 	513回		
		リハビリテーション専門職を地域に派遣し、介護予防や健康づくりについて助言・指導した回数					
5 在宅生活を支援するサービスの充実							
5			145	おむつ給付サービスの実施	原則として、要介護度4以上の認定者で、失禁などのため常時おむつを使用することが必要な在宅の寝たきり又は認知症高齢者などに対して、おむつなどの給付を行います。	【未設定】	[参考] 利用者数 3,815人
						第9期介護保険事業計画内に事業の見直しを行い、対象要件をより厳格化する見込みが高いため、成果指標の設定は困難である。	
5			146	訪問給食サービスの実施	栄養管理・改善が必要な一人暮らしの高齢者に、栄養のバランスのとれた食事を届け、在宅生活を支援するとともに、利用者の安否を確認し、健康状況に異変があった場合には、関係機関への連絡などを行います。	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数 令和4年度：887人/月 → 令和8年度：900人/月 	915人/月
					一人でも多く配食することで、利用者の健康増進につながり、また安否確認もできるため。		
5			147	日常生活用具の給付	一人暮らし高齢者等に対して、介護保険の給付対象になっていない火災警報器・自動消火器・電磁調理器を給付します。	<ul style="list-style-type: none"> 給付件数 令和4年度：22件 → 令和8年度：30件 	10件
					サービス利用が必要と認められる方に対し適切にサービスを提供して、利用者の日常生活の便宜を図るため。		